

京都の福祉

発行 京都府社会福祉協議会



2009
10
No.494

本紙は、共同募金の
配分金によってつくられています。

主な記事

- 1面…もえくさ
- 2・3面…第63回赤い羽根共同募金活動始まる
- 4・5面…地域を守る・育てる取組み③
～南丹市美山町知井地区～
- 6面…第58回京都府社会福祉大会
- 7面…選ばれる製品を作る!!
～製品づくりから販売戦略(マーケティング)まで～
- 8面…夢中!・熱中!ふくしびと



ワークキャンプでの草刈と参加した学生さん

もえくさ

▼月に1度、老々介護をしている両親に元気な顔を見せるために田舎に帰る。老いた母は、よく帰ってきてくれたと弱々しい力で手を握りしめ、「ありがとう」と言ってくれる。別れ際には、遠く離れているのでもう会えないかも知れないと思うのか、慈しむように白内障の目で私の顔を見つめ、また手を握りしめる。「また来るね」と私は別れを告げる。「古い」という限られたこれからの人生を少しでも共有したいと思う。高齢化の進む静かな田舎町に、時折、救急車のサイレンが響き渡っている。▼そんな時、1,000人の死を見届けた終末医療の専門家が執筆した「死ぬときに後悔すること25」大津秀一(致知出版社)を手にした。著者が、京都の日本パブテレスト病院ホスピス勤務(京都市左京区)をしていたこと、そして見出しの「後悔しない人生を歩んでください。人は死ぬ際にこんなことを後悔しています。」の文字が目に残る。▼25項目の中には、「生前の意思を示さなかったこと」「自分のやりたいことをやらなかったこと」「遺産をどうするか決めなかったこと」「自分の葬儀を考えなかったこと」「故郷に帰らなかったこと」「仕事ばかりで趣味に時間を割かなかったこと」「愛する人に『ありがとう』と伝えなかったこと」など終末期の患者さんの「後悔」が紹介されている。死期が迫ると、自分の思いをなかなか伝えられなくなってしまうことが少なくないという。▼本会・きょうと高齢者・障害者生活支援センターでは、「語りた」と「聴きたい」をつなげる小冊子「わたしの綴り帖」を発行している。家族や信頼できる誰かと一緒に「これまでとこれから」を書くノートである。ぜひ、皆さんもこのノートをきっかけにのちの響き合いを確かめてほしいと思う。▼先の衆院選で国民が選択した新しい政治がはじまる。一人ひとりの人生、かけがえのないのちを大切に世の中に一歩でも前進させたいものである。

がとうございます!

平成20年度の京都府全域の募金額は
280,810,907円でした。

京都府・京都市社会福祉協議会・福祉団体
活動支援、共同作業所等施設設備、災害等
準備金、共同募金会運営費

102,174,335円

住民全般福祉活動のために

ボランティア活動の推進・啓発、地域福祉
活動費等

68,226,886円



21,411,718円

57,883,214円

18,961,446円

12,281,308円

赤い羽根データベース「はねっと」

<http://www.akaihane.or.jp/hanett>

皆様から寄せられた寄付金が、どのように配分され有効に活用されているかをインターネットを
使って知っていただける配分情報の検索システムです。



第63回 赤い羽根 共同募金運動 始まる

「地域の福祉、みんなで参加」をスローガンに、今年も10月1日から赤い羽根共同募金運動が全国一斉に始まりました。

昭和22年に始まりました共同募金運動は、京都府民の多くの皆様からのあたたかい気持ちと多くのボランティアの方々に支えられ、今年第63回目を迎えました。これまで多くの皆様からお寄せいただいた総額154億円を超える貴重な寄付金は、京都府内における地域福祉を支える財源として、大きな役割を果たすことができました。これもひとえに皆様方のご熱意とご尽力のお陰と心から感謝申し上げます。

あなたのまちの幸せのために、みなさまのご理解と一層のご協力をお願いいたします。



ご存知ですか？ 赤い羽根募金の 使いみち

共同募金への寄付金は、日本全国のおよそ9万件の社会福祉活動や草の根のボランティア活動のために役立てられています。「赤い羽根データベースはねっと」では、共同募金の使いみちを全国の市町村ごとに紹介しています。皆様のお住まいの地域で、共同募金はどのように生かされているか、はねっとを是非ご覧ください。

<http://hanett.akaihane.or.jp>



もっと
知ってほしい
話がたくさん。
京都府共同募金会の
ホームページ

共同募金への一定額以上の寄付には、
“税制上の優遇措置”があります。

<http://www.akaihane-kyoto.or.jp>

共同募金にご協力あり

ありがとうメッセージ

助成を受けられた方々から、ご寄付をいただいた皆さんへ
お礼の言葉が寄せられています。一部をご紹介します！

障がいのある仲間の方々が心を込めて手作りしたおいしい豆腐を、助成いただいた車で多くの方々にお届けしていきます。



▲社会福祉法人アイアイハウス
「とうふ屋あい愛」(北区)



▲ひとり暮らし高齢者の集い
(伊根町社会福祉協議会)

ひとり暮らし高齢者の方を対象に、レクリエーションを実施し、ボランティアの方とのふれあいを図っています。

赤い羽根の助成をうけて新しく購入したピアノでみんな元気いっぱい歌っています。これからも音楽分野の保育活動を充実させていきたいと思っています。



▲社会福祉法人白菊福祉会
白菊保育園(伏見区)

こんな募金方法もあります

お申込み・お問合せは
京都府共同募金会 ☎075-256-9500 まで



京都府共同募金会
オリジナル図書カード
1枚 1,000円
(額面 500円)



オリジナル
QUOカード
1枚 1,000円
(額面 500円)



バッジ
1個 1,000円

京都府共同募金会では、3種類の募金グッズを取り扱っております。
ご家族、お友達にプレゼントされてはいかがでしょうか。



社会福祉法人 京都府共同募金会 TEL 075-256-9500 FAX 075-256-9505

平成21年度 支会別共同募金目標額

支会名	目標額	支会名	目標額	支会名	目標額
北区	19,030,000	福知山市	12,354,000	乙訓地区	10,367,000
上京区	12,628,000	舞鶴市	12,591,000	久世地区	2,900,000
左京区	16,361,000	綾部市	6,867,000	綴喜地区	2,223,000
中京区	15,625,000	宇治市	15,600,000	相楽地区	4,216,000
東山区	6,692,000	宮津市	2,861,000	京丹波町	3,735,000
山科区	13,611,000	亀岡市	8,987,000	与謝野町	4,154,000
下京区	10,923,000	城陽市	7,825,000	伊根町	583,000
南区	10,000,000	八幡市	4,310,000	郡部計	28,178,000
右京区	19,802,000	京田辺市	5,421,000	支会計	283,243,000
西京区	14,518,000	京丹後市	9,763,000		
伏見区	17,000,000	南丹市	6,129,000		
京都市計	156,190,000	木津川市	6,167,000	事務局扱	4,997,000
		12市計	98,875,000	合計	288,240,000

美山町知井地区における住民活動と

学生による山村生活支援型ボランティア活動の協働

地域を守る・育てる取組み③

かやぶきの里で有名な南丹市美山町には全国から年間70万人もの観光客が訪れます。美しい田舎の風景・しかしそこに住む人々は他の地域と同様に過疎化、高齢化の波に直面しています。

美山町の最も東に位置する知井地区では、他の地区同様、若者の多くは都市に出て行き、住民の半数以上が高齢者という集落も珍しくありません。

どのようにして長年住み慣れた地域での自分たちの暮らしを維持、持続していくのか……。住民主体の組織である知

井振興会（以下、振興会）での取り組みをご紹介します。

知井地区の実情

知井地区には、10の集落がありそのうち3集落を「支援集落」と位置付けています。振興会では「限界集落」という言葉は、そこに暮らしている住民にとっていい言葉ではない」という思いで「支援集落」という言葉を使っています。

振興会は、行政と住民が一体となって地

域づくりを行っていく組織として、公民館、

自治会、村おこし推進委員会などの住民組織を統合して9年前に誕生しました。また、旧美山町は町域が広がったため、行政の窓口の機能も持つており、町職員も配置されました。

美山町では、数年前までは集落内で住民同士が寄り合って協働で除雪作業や山畑やお寺の管理をしてきました。また、冬は積

雪量が多く、雪かきは冬の暮らしのなかでは必ず必要になってきました。しかしながら、高齢化した集

落では74歳の方が1人で6件の独居老人の除雪を頼まれていたり、頼む側も「借りた手間を返せないから」と助けを呼びにくいとの声も聞かれるなど、住民同士の助け合いだけでは暮らしが成り立たなくなっています。「なんとかしなければという危機感が一番大きかった」と会長の名古さん。役員の話し合いが持たれ、「自分たちでできなければ外部の力をどう使うか」と事務局長の河野さんが考えていた矢先にボランティア学習の実践・研究に取り組む華頂短期大学の名賀亨准教授と知り合います。

「偶然の出会い」から始まった 美山ワークキャンプ

名賀氏が代表を務める京都ボランティア学習実践研究会（以下、研究会）では、地域のニーズに基づいたボランティア学習実践のフィールドを模索していた時期で、今後の地域支援に頭を悩ませていた振興会とフィールドを探していた研究会のタイミン

グが一致したある種の「偶然の出会い」があつてワークキャンプが誕生しました。研究会では、このワークキャンプを「生活課題支援型ボランティア活動」実践と位置付け、(1) 現地にあるさまざまな課題

解決に「ワーク」という手法で関わりその解決を目指す(2) 関わる姿勢はあくまでも地元で暮らす人たちの主体性を応援する形で関わる(3) 活動を通してその地域のことや、そこにある生活課題について考える(4) 現地で生活している多様な当事者の人たちが、他の参加者と様々な形で交わることで自分自身を見つめなおす機会を得て、相互の理解を深めることを目指しています。美山町での活動は、学生や支援者たちが地域の公民館に約1週間泊り込み、地域のニーズに応じて草刈りや掃除、独居高齢者宅の除雪などをします。

はじめのまでの困難を 乗り越えて

ワークキャンプをはじめるとに当たり、知井振興会役員に美山町社協が加わって受け入れ側の調整役となり、地元住民に説明会を開きましたが、「こんな田舎に興味本位で来るだけではないか?」「(学生への)接待に余計な手間がとられる」などの声もあり、決して歓迎されているとは言えませんでした。「正直に言えば、受け入れは難しいと思っていた。」「ワークキャンプはあくまでもその地域で生活する方が主体。その意味では、地域の方との協働が活動の前提です。」と名賀氏は言います。

できる限り集落に住む人々が「受け入れたい」と思える活動にするため、「食事は学生自身が自炊すること(接待はしない)」「作業の立会いが必要ない(義務化しない)」「事故が起こった場合は主催者が責任を持



を掻き出す作業は決して楽なものではありません。取材を行った日も8月の太陽のもとで、道路の側溝の清掃作業の真っ只中でした。

汗・泥にまみれながらも熱心に明るく作業する学生たちの姿を見た住民からは「学生たちがここまで一生懸命にやってくれるとは思わなかった」「自分たちの地域のことを懸命にやってくれる姿を見てこちらが励まされた」との声が聞かれました。さらに、きれいに片付けられた様子を見て「今度はいつ来てくれる？また頼むわ」と振興会へ今後の活動を依頼を期待する声も寄せられたそうです。名賀氏は、住民の方の「今度はいつ来てくれる？」の声を聞いた時、ワークキャンプが受け入れられたと実感したそうです。

また、ワークキャンプ中に振興会主催で住民との交流の場もたれました。学生からは「山村で暮らしている方と話す機会を持つことができ有意義な時間だった」「暮らしていることを聞いたことで美山が好きになった」という声が聞かれるなど、地域・学生の双方にとって得るものが多い活動になったようです。

ワークキャンプから繋がるボランティア活動

さらにこのつながりが緊急時に力を発揮します。今年1月に知井地区では屋根の高

さを雪が積もりました。しかも、例年になく水分を含んだ重い雪であったため、地元からは「今まさに助けて欲しい」との声が上がりました。急遽、南丹市社協がワークキャンプ参加者と南丹市内のボランティアに呼びかけを行い、独居高齢者宅の屋根の雪下ろしを行いました。このことが京都新聞に取り上げられ、その記事を読んだ隣の住民がかけつけてくれるなど、3日間で新聞記者、行政職員、地元議員を含めて延べ50人余りがボランティアとして除雪作業を行いました。「必要な時に来てくれるような連携が理想」という河野さんの言葉に近づいた結果であり、今後に期待が高まっています。

振興会は地元住民のよろず屋

「昔の自治会は楽やった。今は何もかも自分らでやらなあかん」と名古会長は言います。当初は行政職員2名が役場から派遣され、自治会

河野さんは「これまで役場が考えてくれていた問題を、住民から要望をあげて行政が事業化できるものを要求している」と言います。振興会は生活問題対応から防災対策、若者の定住促進まで多岐にわたる事業を企画運営して、地域の「よろず屋」として頼られる存在になっています。

成功の背景

このワークキャンプは、「ソト」の力を必要としていた振興会と地域のニーズに基づいたボランティア学習実践のフィールドを模索していた研究会の「偶然的出会い」から出発しました。しかし、そこに至るまでには地域住民が生活上の困難をどのように解決しているかという悩みを日々話し合い、共有していればこそ、「出会い」に結びついたといえます。また、住民との信頼関係を積み上げてきていた振興会、ボランティアコーディネーターに長けた社協がバックアップすることにより、地域住民には活動への安心感が生まれました。さらに、行政も地元との調整（市職員）や活動への財政的な支援（京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金）など側面的に援助を行ったことも安定した運営ができた要因です。

京都府内では南丹市美山町に限らず、地域社会を持続していくことが困難になっている集落が数多く存在します。「ソト」の力も借りながら自分たちの地域を守っていくという手法の可能性を見出すケースとして注目していきたいと思えます。

学生たちの一生懸命の活動が認められた！

「ことなどを約束事として提案しました。また、知井振興会と協働するという流れも理解いただき「そこまで振興会が言うのなら受け入れてみよう」とひとつの地区で受け入れの承認を得られました。」

残暑の厳しい昨年（平成20年）9月に初めての活動が行われ、厳しい日差しが照りつける中、背丈まで伸びた草を鎌で刈り、農業用水路の清掃では粘土質の固まった泥



河野事務局長



名古会長

京都府社会福祉大会を開催



第58回京都府社会福祉大会決議文 決議文

近年、急速な少子・高齢化の進行に加えて、現下の厳しい雇用・経済情勢は、府民生活にも大きな影響を与えています。今、私達のごく身近なところで、高齢者の孤立化をはじめ子育て不安や児童虐待、ひきこもりなど様々な地域課題が浮き彫りになるとともに、その様相も多様化、複雑化しています。

また、高齢者や障害者、児童などが、犯罪や災害の被害者となるケースが増加しており、防犯、防災対策の面からも、地域のネットワークの強化が求められています。

これらの課題を解決するために、公的な福祉サービスの充実や整備を図るとともに、住民参加による地域における新しい支え合いの仕組みづくりを進めていくことが重要です。

こうした中で、社会福祉協議会、共同募金会、社会福祉施設、民生委員・児童委員、ボランティア、行政は、それぞれの得意分野を活かし、地域の様々なニーズに的確に対応するため住民と連携・協働して、地域力を向上させ、地域福祉を推進していく役割を果たすことが求められています。

この大会を契機に、私たちは、地域社会の一員としてそれぞれが自らの役割を自覚し、誰もが住み慣れた地域で安心して安全・快適に生活できるよう、地域のネットワークを活性化し、優しくあたたかい心で一人ひとりを大切に、支え合う新しい仕組みの構築に尽力していくことを決意するものです。

以上、決議します。

平成21年9月10日
第58回京都府社会福祉大会

9月10日(木)、京都府民総合交流プラザ(京都テルサ)において第58回(平成21年度)京都府社会福祉大会を開催しました。当日は、京都府内(市内を含む)全域から多勢の方々にご参加いただき大盛会となりました。

第一部は、表彰式典が行われ、永年にわたり社会福祉事業に貢献された民生児童委員、社会福祉施設、団体、社会福祉協議会の役員の方々と、ボランティアとして活躍された方、また、多額のご寄付やご協力をいただいた方々が表彰状・感謝状をお受けになりました。

式典の最後には、社会福祉の向上に取り組んでいくことを広く府民にアピールするために大会決議を行いました。

第二部は、記念講演として、「暮らしの中から見てみよう 初めてのユニバーサルデザイン ～みんなが進める「あつたか京都」～」というテーマで、株式会社ユーディット代表取締役社長の関根千佳氏に講演いただきました。

関根氏は、日本IBMに入社し約2年間の米国滞在の体験を経て、高齢者・障害者のIT利用技術について新製品の企画・販売支援などをされてきました。同社から独立後、その経験を活かして「情報のユニバーサルデザイン」の推進を掲げ、誰もが使いやすいIT機器の開発や高齢者取得組まれています。

けになりました。知事表彰では86名、25団体、府社協会長表彰・感謝は186名と47団体、府共募会長表彰・感謝は119名、187団体へ表彰状、感謝状が贈呈されました。

講演では、自身が海外で体験をしたことなどをもちに、すべての人が「使いやすいデザイン」

「人づくり」「意識づくり」などについて分かりやすくお話をいただきました。

また、京都府内の全市町村協会で取り組んでいる「高齢者見守り隊」事業についても、ユニバーサルデザインの視点から見て参考になる取り組みの一例として紹介をしていただきました。

会場ロビーにおいては、共同募金運動のポスター、パネル展示、ボランティア情報紙の紹介・配布、障害者施設授産製品の展示・販売等を行いました。

「ボランティアコーナー」を設け、たくさんの方で賑わいました。昨年度に引き続き、今年度も地域のボランティアグループがその場に参画し、自ら自分たちの活動について発表する「参加型」の企画として「私達のまちの自慢活動発表・演奏&配食サービス」を行ない、オカリナアンサンブル「ぐーす」の美しいオカリナの響きが会場に響き渡りました。

ご寄付ありがとうございました



平成21年9月30日にNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様及び(株)NTTドコモ関西支社様より50万円のご寄付をいただきました。社会福祉事業の発展のために活用させていただきます。ありがとうございました。

製品づくりから 販売までの基本を学ぶ！

去る8月28日(金)、京都府社会福祉協議会、京都ほっとはあとセンターの主催による研修会「選ばれた製品を作る!!〜製品づくりから販売戦略(マーケティング)まで〜」を開催しました。この研修会は、平成22年1月に開催予定の「ほっとはあとEXPO in Kyoto」のプレ企画として、選ばれた製品づくりとマーケティングのノウハウを学ぶことを目的に開催しました。

研修会では、千葉県にある障害者支援施設「就職するなら明朗塾」のCEO(総括施設長)で、全国社会就労センター協議会 事業進行委員会 筆頭副委員長の内藤 晃氏より、「製品に競争力をつける!」をテーマに、集客マーケティングと売り場マーケティングについて講演いただきました。まず、目標設定ができれば目標は必ず達成できる

として、売り上げや集客の目標をしっかりと定めることの大切さや、購入行動に結びつく要素について話され、またお客様を増やすための考え方やその方法、広告宣伝のあり方やマ

スコミ報道の活用方法について話されました。後半には、京都府内の5箇所の障害者福祉施設より製品のプレゼンテーションをしていただき、多様な立場の4名の審査員から各製品に対してのコメントと改善のアイデアをいただきました。新しいネーミングの提案やターゲットの設定、商品に新しい機能を持たせるひと工夫など、それぞれの製品に対して具体的な提案をしていただきました。

参加者からは「具体的な体験談に基づいた講演でよかった」、「商品の作成に至る経緯や想いが参考になった」、「施設の他の職員にも伝えたい」などの感想が寄せられました。この研修会をきっかけに、府内のほっとはあと製品の作成過程や販売過程にキラリと光る工夫がされ、競争力がアップすることを期待しています。

審査員

- 内藤 晃 氏
(就職するなら明朗塾 CEO(総括施設長)
(全国社会就労センター協議会
事業振興委員会 筆頭副委員長))
- 石川憲昭 氏
(アイマーケ 株式会社 代表取締役)
- 佐藤弘樹 氏
(α-STATION パーソナリティ)
(京都外国語大学非常勤講師/京都造形芸術大学非常勤講師)
- 加藤太一 氏
(京都中小企業家同友会 障害者問題委員会 委員長)
(就労継続支援事業所 ワークハウスせいらん 施設長))



京都府内の福祉施設で作られた製品・サービスが一堂に! ほっとはあとEXPO in Kyoto

このイベントは、京都府内の商品を作っている障害者福祉施設が一堂に会し、各施設が作っているほっとはあと商品の魅力を広く発信するとともに、企業からの商談を受けることで販路拡大を図り、障害者の自己実現、自立支援につなげることを目的としています。

日時 平成22年1月22日(金) 13:00~17:00

23日(土) 10:00~13:00

会場 京都産業会館(きらっ都プラザ) 3階展示場

主催 京都府社会福祉協議会、京都ほっとはあとセンター

※出展施設募集は10月頃開始予定です。

詳細は、きょうと福祉パートナー事業ホームページ

(<http://www.f-partner.jp>) をご覧下さい。

「ほっとはあと製品」とは…

これまで障害者の作られた製品を「授産製品」と呼んでいましたが、これに代わる言葉を募集し、決定したのが「ほっとはあと製品」という呼称です。

公開プレゼンテーション 参加施設

- ワークショップ友愛印刷…メモ帳・一筆箋
(多彩な絵柄の型抜きと一枚つづの絵付けが特徴)
- みやこ西院作業所…ゆずみそ・山椒味噌
(国産米・豆を使用した味噌)
- 京都ふれあい工房…マグペット
(PETボトルを再利用したキャラクターマグネット)
- 乙訓若竹苑…ヒノキのおもちや
(厚さ2cmのヒノキの板から作る動物・乗り物など)
- 志津川福祉の園…メモリアルポット
(動物用の骨壺〈陶器〉)

夢中!・熱中!ふくしびと

～だから続けたいこの仕事～

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝える新コーナーです。京都府内で“熱い福祉”を“夢中”で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいを“生”の声でお届けします。



事業所名：社会福祉法人
職 種：木津川市社会福祉協議会
事務局長兼山城支局長
経験年数：37年
好きな言葉：努力
熱中していること：
一閑張り（竹かごに和紙を張って柿渋を塗る）ろう花づくり

柔軟な頭と心を大切に

木津川市社会福祉協議会

松村 貴世子さん

昭和47年4月1日から、山城町社会福祉協議会にお世話になっていきます。その当時の社会福祉協議会は永年の「眠れる社協から、法人格をもった社協へ」と変革した直後でした。

役員の皆様はどのような活動をしたらよいか地域懇談会を開催し、住民からの発言をもとに冠婚葬祭の合理化運動に取り組まれていました。私も最初は、社協は何をするところか何もわからず、府社協から、毎月のように研修会等の案内を頂き、出席する中で、他市町村の活動を聞き、我町でも出来ることはないかと模索する毎日であったなと思ひ返しています。

先輩から、「社協職員は事務所にばかりいてはいけませんよ。外へ出てみんなの声を聞くことを大切に。」とのアドバイスを受け、町内の一人暮らし老人宅の訪問活動を保健師、ヘルパーの協力を得て取り組みました。

この訪問活動で、一人暮らし老人の生活実態が明らかにになり、ボランティアの協力を得て食事サービス活動や入浴サービス活動を行っている在宅福祉活動の第一歩となりました。

山城・木津・加茂の三町が合併して、3年目を迎えますが、まだまだひとつになりにくい現状があります。小地域活動を重視し木津川市民が「いつまでも住み続けたいと思うまちづくり」を推進していただきたいです。

永年仕事をしていて、思うことは、その人の立場に立ち、同じ目線で物事を考え、臨機応変に対応する柔軟な頭と心が大切です。

あと半年で二度目の定年を迎えますが、後輩の皆様方には、今までの活動を振り返り新たな活動へと繋いでいっていただきたいと思っています。

京都の福祉 毎月1日発行 昭和36年7月26日 第3種郵便物認可

発行所 京都府社会福祉協議会
発行人 森 育 寿

〒604-0874 京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町375
TEL 075-252-6291 FAX 075-252-6310
URL <http://www.kyoshakyo.or.jp>

「京都の福祉」へのご意見、ご感想、
とりあげてほしいテーマなどをお寄せ下さい。
表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)

本会へのご意見等は、左記URLの
「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

